

震動実験総合エンジニアリング

工場設備の保守事業参入

制御技術を活用 民間分野開拓へ

世界最大の震動台を制御する技術を、工場の設備保守に転用。三木市にある実大三次元震動破壊実験施設（Eーディフェンス）の保守・運転を請け負う「震動実験総合エンジニアリング」（三木市）は、工場設備の保守事業に参入する。巨大施設の稼働から今年で10年。積み重ねたノウハウで新分野を開拓する。（高見雄樹）

ガンバル！ 中小企業

Eーディフェンスは、震技術の向上に役立てる。国立研究開発法人・防災科学技術研究所（茨城県つくば市）が2005年に設置した。同社は、Eーディフェンスを造った三菱重工業などが出資して04年に設立し、社員は20人。油圧を利用して巨大な台を正確に動かす技術のほか、ポンプやエンジンなどの保守ノウハウをこの10年間で蓄積してきた。

具体的には、さまざまな機器を組み合わせた装置全体の点検や運用を想定。近く初の営業担当として技術部門の社員2人を充てる方針だ。木嶋達夫・執行役員経営企画部長は「世界最大の装置の保守は特殊な技能だが、民間の工場でも必ず役



Eーディフェンスの設備を点検する震動実験総合エンジニアリングの社員（同社提供）

しかし、国の研究予算が年々削減され、Eーディフェンスの受託業務も減少が見込まれることから、新たな収益基盤を確保する必要があると判断。兵庫県内の中堅企業を対象に、工場設備の保守や

に立てるはず。ニーズを洗い出したい」と意気込んでいる。